

「モリイク」は、コープ未来の森づくり基金が、森と人、森づくりと人をつなぐ目的で発行している冊子です。

コープ未来の^{あした}森づくり基金レポート

モリイク

MORI - IKU

森に行こう。
森で育とう。
森を、育てよう。

vol.06
Sep. 2013

編集後記

旅行に出かけたらキツネやシカに会った。山に登ったときにカールの向こう側に親子のクマを見かけた。いつも散歩に出かける公園でまぶしいような赤い鳥に会った。川の土手に座ったら隣にひなたぼっこをしていたヘビがいて肝をつぶした。

野生動物との出会いは、それがどんなケースであっても、多くの場合私たちの心に強い印象を残します。それはたぶん、私たち人間以外の生き物がこの世界に生きていることを、みんなが大切に思って意識しているからではないでしょうか。

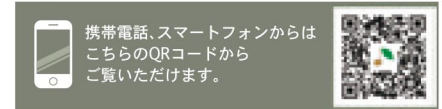
しかしお互いの距離というのは、原則的には理解しあえない「他種」であるからこそ非常に大切で、上手な距離の取り方をしなければたやすく軋轢になってしまいます。そしてそれは、野生動物の影が濃い北海道ではなおさらのこと。

それでも、豊かな深い森が身近にあって、たくさんの野生動物に会えることって、本当にすばらしいし、貴重なことなのだと思います。

いつまでも動物と人が豊かな関係を続けていけるよう、北海道の森と人と動物のあり方を考え続けていきたいものです。

あすもりfacebookページ

<https://www.facebook.com/coop.asumori>



モリイク vol.06
2013年9月発行
発行元/ コープ未来の森づくり基金

VEGETABLE 100% この冊子は環境に配慮してベジタブルオイルインクおよび100%再生紙を使用して作成しています。



動物と人の交差点

動物たちと私たちの間には
森をめぐって
解決すべき問題がある。

モリイイク

人が必要とする森、動物が必要とする森、
どちらもちがう。
ともに森で生きていくために必要なことは？

* contents *

- *02 コラム 森づくりのトレンド
未来のための市民による森づくり
- *04 特集 阿寒・前田一步園財団
分かち合う森づくり
- *08 自然に身をまかせること
英円楽器
- *09 もっと樹のことを語ろう
大きな木の小さな物語
- *10 親子で楽しむ森のページ
森のキモイ キレイ
- *12 森と人のコラム
人と野生動物の素敵な距離
- *13 コープ未来の森づくり基金報告
第5回植樹祭・Fの森ワークショップ・会計報告ほか

Starting Column

あした 未来のための 市民による 森づくり

皆さんは「動物にとって住みやすい森」というとどんな森を想像するでしょうか？ たぶん、うっそうとした原生林を思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか。確かに、シマフクロウのような動物が生きていくためには、生息場所としてまとまりのある原生的な森林、営巣木として利用する空洞がある大木、餌である魚をとれる豊かな生態系を持った河川が必要です。要するに人間の手が必要で、できるだけ広大な自然を必要とするのです。

ただ、すべての動物がこのような生息環境を好むわけではありません。例えば鳥類には様々な「好み」をもったものがあります。うっそうとした森を好

む鳥もいれば、草原を好む鳥もいます。草原を好む鳥類でも、ずっと草原で生活するものもあれば、草原で餌をとるけれども巣は周辺の木に作るものなど、様々です。

ところで、「里山の危機」ということを聞いたことがあるでしょうか？ 日本は生物多様性を保全するために国家戦略を策定していますが、その中の重要な課題として里山の保全があげられています。里山は、人間が燃料や肥料のために木や草を採取するという長い働きかけの中でつくられてきた明るい森で、そこには特有の生物が住んでいます。ところが人間が肥料や燃料を森林から採取

する必要がなくなる中で、人間の働きかけがなくなってしまい、里山が荒廃してきて、これまでそこに住んでいた生物が絶滅の危機にさらされているのです。

そもそも自然の状態でも台風や落雷による山火事など、様々な要因で森林は壊れたり再生したりという循環を繰り返しています。そして、そうしたなかで多様な生物の生息場所が確保されてきたということがあります。

このように動物はその種類によって求める生活環境が多様です。うっそうとした原生林ももちろん重要なのですが、多様な生物が生きるためには多様な環境が必要です。そうする

と、これから動物が住みやすい森づくりを進める場合、今のような森が不足しているのかをはっきりさせたいうえで、不足している森を維持し、増やす努力をしていかなければなりません。開発の影響で大きく減ってしまった原生的な森林を保全し、また再生の努力をしつつ、人間の手が入らなくなってしまった里山に対して再び人の手を入れるなど、細やかな対応が必要となっているのです。

もう一つ動物との関わりで問題となるのは獣害です。最近全国各地でシカ・サル・イノシシなどによる人への危害・農作物が荒らされるなどの問題が多発しており、北海道ではヒグ

マが人里に出没して人々に大きな不安を与えるケースが増えています。この背景には何があるのでしょうか？

今、日本では少子高齢化が進んでいますが、特に農山村では人口減・高齢化が他地域より急速に進行しています。このために耕作放棄地が増加し、また周辺の森林にあまり手を入れることができなくなってきており、これらは結果的にヒグマの生息に適した土地になってしまっています。このためヒグマが人里まで近づいてくるとされています。

また、人口減・高齢化は、狩猟などによる地域自らの被害軽減対策をとる力を低下させているということも問題として

指摘されています。

こうして見てくると農山村の活性化を進めることが実は獣害の軽減や適切な野生動物の管理に重要であることがわかります。

守るべき森林は守りながら、有効に活用できる森をつかうということが、生物のより良い生息場所の提供ということに結びついてきます。

そして、その前提として、森・人・動物の関係に関する正確な理解、そして人の森への適切な働きかけを維持するための農山村社会の維持が必要とされているのです。✦



柿澤 宏昭
(かきざわ ひろあき)

北海道大学
森林政策研究室 教授

コープ未来の森づくり基金 運営委員長

1959年神奈川県横浜市生まれ。北海道大学大学院農学研究科修士課程修了。現在、北海道大学農学部森林政策研究室教授。持続的な森林管理を多様な人々の協働で支えるしくみづくりをテーマに研究を行っている。また、欧米、ロシアなどの森林管理政策にも詳しい。主な著作に『エコシステムマネジメント』（築地書館）、2008年より「コープ未来の森づくり基金」運営委員長を務める。

美しい森をつくる その過程で シカとつきあう

-全道規模で起こっている
エゾシカの食害問題。
その最先端では？-

水と森が織りなす美しき阿寒湖。
それは、森をつくる人の
絶え間ない努力によって
維持されている。

分かち合う 森づくり

阿寒・前田一步園財団

北海道を象徴する美しい森。
そこに訪れた予想外の事件。

阿寒湖といえばその美しい湖と森。その景観は、北海道を代表する自然の美しさと言えるのではないのでしょうか。同時にその湖と森が織りなす環境は、多くの生き物たちを抱く多様性の宝庫でもあります。そんな阿寒湖の森が、実は人による森づくりで作られてきたものだということは、あまり知られていないかもしれません。

明治時代、政府から払い下げを受け、馬産と製紙用の木材生産の事業を行っていた「前田一步園」の初代園主、前田正名は、その森の美しさに感銘し、「この山は伐る山から観る山にすべきである」と言ったとされています。その精神を受け継ぎ、前田一步園は美しい景観を保つ森づくりを進めてきました。

しかし、昭和の終わりごろから森に異変が見られるようになってきました。それまではほとんど目にしなかったエゾシカが頻りに姿を現し、冬になると木々の樹皮を食べて木を枯らしてしまうようになったので

す。年を追う毎にその被害は進み、オヒョウ、ハルニレ、キハダ、シナノキなど、食害を受けた特定の樹種が次々に森から姿を消していきました。エゾシカの密度は増え続け、国道沿いには樹皮をはがされた木々が無惨な姿で立ち並び、冬の終わりには餓死したエゾシカの死体があちらこちらに転がっているといった、殺伐とした景観になることもしばしばとなってきました。

阿寒の森がこわれてしまう。
始まったエゾシカ対策

このままでは森がだめになってしまい、阿寒湖の大切な魅力である景観にも問題がある。増えるばかりのエゾシカと樹皮食いによる樹木の食害に危機感を募らせた前田一步園は、エゾシカ対策に乗り出したのです。

地道な調査活動から始まって、研究者と協働しながら数々の試行錯誤を重ね、その対策は現在で20年以上にも及びます。今では樹皮食いの木はほとんど見られなくなり、そんな時代があったことを想像させないような、美しい森が人々の目を楽しませてく

れています。

阿寒の森と人とエゾシカ。
その物語が示すこと。

しかし、一見豊かさとししさを取り戻したかのように見える阿寒の森にも、まだエゾシカの被害は続いているといいます。前田一步園のエゾシカ対策は、引き続き試行錯誤の段階なのだそうです。それでも、その努力が一定の効果を示したことは間違いのないでしょう。

阿寒湖の森はどのような経緯をたどってエゾシカとの問題を解決したのでしょうか。そしてそれが、私たちの森づくりにどのような未来を示しているのか、前田一步園財団の森づくりについて聞きました。



一般財団法人
前田一步園財団 information

〒085-0467
釧路市阿寒町阿寒湖温泉1-5-2
0154-67-2207
<http://www.ippoen.or.jp>

**多様な森の恵みを受け、
阿寒湖・原生の森づくり**

「前田一步園の森づくりの目標は、人が手を加える前の『原生の森』に戻すことなんです」

そう話すのは、前田一步園財団で森づくり全般を担当する酒井さん。阿寒湖の美しい森は、木材として利用する森ではなく、見て楽しみ、その森づくりの余剰として木材を利用するという方針を採ってきました。枯れた木や倒木を撤去せずに生物の多い環境を残し、川の周囲の木を伐採しないことできれいな川と湖を守ってきたのです。

だから、森林に手をかけるコストは林業で回収できているわけではないと言います。

「でも、私たちがつくった森に見に来る人が多く、そのことで、阿寒湖の周りの人たちの商売が上手くいって、私たちの森づくりに還元されてくるんです」

直接林業で利益が出なくても地域をつなげた経済の循環が森づくりを支えている。木材利用という森林の一面的な機能だけではなく、景観や生物多様性の保全、水源かん養など、森がもたらす様々な恩恵を認識し、恵みとして受け取る。それが前田一步園が続けてきた森づくりなのだと言います。

前田一步園財団
森林保全課
酒井 賢一さん

そんな阿寒湖の森づくりに異変が起きたのは1980年代。それまでは見かけることすら少なかったエゾシカが姿を現し始めたのです。

**「阿寒の森が
だめになってしまう」**

針葉樹の木の下で休息し、凍らない川でのどを潤し、広葉樹が食料となる阿寒湖周辺の豊かな森は、周辺の環境の変化により冬を越すのが難しくなったエゾシカたちにとって絶好の越冬地となりました。広範囲から越冬のために集まってくるエゾシカの密度はどんどん増え、それに従って木々の樹皮食も深刻になっていきました。周囲をぐるりと食べられれば、その木は枯れてしまいます。こうして樹皮ははがされて枯れた木が目

**冬の阿寒湖の森には
食べるものと
寝るところと
水がある場所が
あるんですもの。**



厳しい冬にわずかな食べ物を求めて樹皮を食べる。その地域では特定の樹種が壊滅的な被害を受けてしまうことも。

立つようになってきました。また、知床からはミズナラの巨木の樹皮も食べられるようになったという報告が入り、「このままでは大切にしているミズナラまで食べられて、今までつくってきた阿寒



の森がだめになってしまう」
非常な危機感をもってエゾシカ対策が始まったのです。

**効果は見えている。
だけど、明快的な答えではない。**



エゾシカの密度や樹木への被害などの調査研究、樹木のネット巻きによる樹皮食の防除や冬期間の給餌と駆除など、対策の試行錯誤は今も続いています。その中で、現在は冬期間のエゾシカへの給餌によって樹皮食を抑えることと、その一方で生きたままエゾシカを捕獲し、一時的に飼育して食肉にするという試みが主に行われています。

「明快的な答えは持っていません。まだまだ模索の段階ですよ」と言いつつも、阿寒湖の森ではエゾシカの密度は減少し、その個体数を維持していることが研究

課題を抱えつつも、前田一步園のこの試みはエゾシカと人のつきあいにひとつのヒントを投げかけているように思えます。

もうひとつ、「大切なのは、シカを森の恵みとして生かすことなんです」と酒井さんが話すように、エゾシカをただ排除するのではないということ。「捕獲しておいて産業廃棄物として処分するのはどうかと思えますよね」森からいただいた恵みとして生かすことで、地域の名物にもなれば、社会への貢献にもなる。そう考えるのは、「エゾシカの数进行调整するのは、阿寒の森を原始の姿に戻すために必要なことであって、数が適正に保たれれば排除する必要はないと考えています。それは、エゾシカも阿寒の森を構成する大切な一員だからです」ということ。

それを伝えるために行っているのが、子どもたちへの環境教育や森を歩くエコツアー。森づくりを学び、エゾシカの現状とこれからの考え、そして自分たちができることとして、森の木にネット巻きをしたりして、前田一步園の森づくりへの思いを伝えているのだそうです。

**動物と共にあることを
考えた森づくりをしよう**

エゾシカに限らず、全国で野生動物と人の暮らしの軋轢は増えつつあります。その原因について、「動物と人の暮らすエリアが近くなりすぎているんじゃないか」と酒井さんは言います。「阿寒は豊かな森と人が暮らす町が隣接している。それが特長だし魅力で

もある。ヒグマなんかが増えてきたら、動物と人の緩衝地帯を作るなどの対策を考えなきゃいけないね」かつて里山が動物と人の暮らしの距離を適切に保っていました。「木を減らすとかではなく、見回りをしたり、動物がどう動くかなどを調査したり、時代と地域に合った緩衝地帯の作り方が必要になるよね」そして、



環境教育プログラムで、子ども達と樹皮食防止のネットを巻く。

**エゾシカと森と
一緒にいるために
たくさん考えよう。**

他の地域の森づくりにしても、今後動物たちがもっと人の生活圏に進出することを考えに入れた森づくりを計画していく必要があるのではないかと話してくれました。

全く人間の好きなように森を作るのではなく、前田一步園の森づくりのように、そこに住む生き物たちをないがしろにせず、森の恵みを様々な意味で生かし、動物たちと適切な距離感を保つ。そんな森づくりを、私たちも考える必要があるのかもしれない。

私たちと動物のより良い関係は、まだ見えないかもしれませんが。でも、動物と私たちのことを考え、共に生きる森づくりをしていくことは、できるのかもしれない。✂

**捕まえるなら
締めるなんて言わないで
どうか美味しく
食べてください。**



植える→育てる→使うことで保たれる森林。
木を使うことも、森を守ることに繋がっている。

木づかい Column

英円楽器

ひでまるがっき

音に身をゆだねてみよう。
そこから気づく世界がある。
そこからつながる、
世界がある。

両の掌にすっと納まるほどの小さな弦楽器。曲線で構成された水滴のようなフォルムから奏でられる音は、思いのほか小さく、そして優しい。それはまるで人と楽器が慎ましやかに交わす、小さな会話のようにも思えます。

伊藤英円さんが「英円楽器」を美唄市に移し、工房を構えたのは2007年のこと。ささやくように奏でられる楽器を選んだことには、様々な出会いやタイミングもあったと言いますが、「多様な価値観があるこんな世の中だから、こういう楽器があってもいいよね」と、音が大きくなるように進化してきた楽器の中にも、静かに佇むような楽器があってもいいだろう、という思いがあるのだそうです。

英円さんが主に作る「ライア」は、竖琴を起源にする古い流れを汲む楽器。一音一音慈しむように弾く弦からはやさしく語りかけるような音が流れ出し、それはまるで森の中を吹き抜けるそよ風のように、音が響く部屋が不思議な空間に変化していきます。だから、活躍の場も、コンサートのように大人数を相手にするよりも病院や介護施設など、静謐が求められる場所が多いのだとか。

その丸い形状も、赤ちゃんを抱いたときにお尻を支えるような、そんなイメージでデザインされているのだと言います。

音も形も優しさであふれるような英円さんの楽器は道産の木材を中心に作られています。それには「北海道に住んでいるから、北海道の木を使うのが普通で自然なことだなんて感じたんだよ」と言うように、地産地消と同じで、土地のものを使うのが一番いい、そう考えるのが自然に思えたのだそうです。そしてそ

の思いの裏には、北海道の林業家との出会いや、長年かけて育った木を無駄なく使いたいという木への愛着が息づいています。その想いが壁一面に並んだコンテナ。今まで制作した楽器の端材が全て保管されているのだとか。

「森から授かる木でものづくりをさせてもらっています。それは、自然の移ろい、四季や天気や、月の満ち欠けにまで関わっているということ、そしてそれが自然の中に生きる人間として当たり前のことなんだと気づかされました。北海道は森を切り開いて開拓してきた土地。だからこそ、森と人の関わりをもっと意識したものづくりをしていきたいと思っています」

英円さんは楽器制作だけでなく、ライア教室も各地で開いています。それを通じて伝えたいことは、「身をゆだねること」。

「楽器を教えるとき、普通はその弾き方を教えてしまうから、音に意識が行かない。それよりも弦を弾いて、出てくる音がどんな音なのか感じて、その音に身をゆだねる大切さを知ってほしいんだ」。楽器の音をしっかりと感じ、森の風や水や木々のささやく音に身を任せる心地よさや、自我を抑えて自然やものごとの流れに身を任せる、その大切さを、ライアの木漏れ日のような音の一粒一粒は語りかけてくれる。そしてそれは、自然や人やタイミングや、たくさんのものごとのつながりについて気づききっかけでもあるのだと言います。

北海道の木で作られたライアとその音を通じて英円さんは、自然や森とともに様々なつながりの中に生きる、私たち自身の営みについて気づかせようとしてくれているように思えます。✂



見ると誰でもほほえんでしまうようなデザインと独特のフォルムの英円さんのライアは、小さなやわらかい音が特長。



楽器制作で出た端材は全て分別して保管してある。何かに使うので、決して無駄にはしないとのこと。



英円楽器 伊藤 英円さん
北海道出身。飲食店やデザイナーを経て2006年開業。翌年美唄市に工房を構え、以来弦楽器を中心にハンドメイド楽器を制作。現在は札幌や開道園でのライア教室も開催している。
<http://www.hidemarugakki.com>

Column
植樹の図鑑 知っておこう。私たちが植える木にも物語がある。

大きな木の 小さな物語

① ハルニレ

「札幌を代表する木は？」と聞かれたら、私は『ハルニレ』と答えるでしょう。

ハルニレはニレ科ニレ属の高木で、大きくなると高さ30mほどになります。扇状地のような水はけのよい土地に生えます。北海道大学の構内には、その地形を表すようにかつてはハルニレの大木が点々と見られましたし、40年ほど前までは、札幌の北大通りあたりでも、車道に大きくはみ出すようにハルニレが残されていました。札幌の地形に適した、札幌を代表する木なのです。

と、大木のイメージを膨らませましたが、その一生はとても小さな一歩から始まります。みなさんはハルニレの花、ご覧になったことがありますか？

その前に冬芽を見てみましょう。花芽(花になる冬芽)と葉芽(葉になる冬芽)は別々です。丸い方が花芽、先の尖った方が葉芽です。

4月の末から5月の始め、ちょうどキタコブシやエゾヤマザクラが咲くころにひっそりと花開きます。ふだん私たちが見慣れている花のように花びらはつけず、雌しべと雄しべだけがでてきます。十数個の花がひとつかたまりになって咲きますが、それでも直径は5~10mm程度、枝先につけるので木の下から見上げてもなかなかはっきりと見ることができません。この画像は雄しべが黒ずんでいます。花が盛りの時は赤い色をしています。雌しべはもやもやとした白い毛が生えている部分です。ちょっとわかりにくいですね。

受粉してタネができる5月の中旬ころから成熟し、大量に散りはじめます。平べったい翼がついているので、ひらひらと宙を舞うように落下します。地面に落ちて、十分な水分と光があると1~2週間程度で発芽します。発芽したときには、むくむくと翼を持ち上げるように伸びます。そしてやや厚めの子葉が開き、1週間から10日ほどで本葉が開きます。苗畑などの条件が整った場所では、その年の秋には20cmくらいの大きさにまで成長します。

長い一生の始まりです。でも大木まで育つのはできたタネの何千分の一なのでしょうね。✂



text/images 孫田 敏
'54年山形県生まれ。'77年北大農学部林学科卒業。林業、その後造園・緑化工事に従事。'90から建設コンサルタント。緑化計画が専門。技術士(建設部門・建設環境)。'00から北の里山の会代表を務める。著書に「水辺林復元計画の基本的考え方と計画の進め方(水辺管理-その理論・技術と実践-)」砂防学会編、「森林管理と市民参加(北野ランドスケープ 保全と創造)」浅川昭一郎編著 など。
WEBサイト「Scan Botanica」 <http://scanbotanica00.sblo.jp>



参考文献 清和研二,1992,樹木だより ハルニレ,光珠内季報No.88,22-24,北海道立林業試験場
森 徳典,1991,北方落葉広葉樹のタネ-取り扱いと造林特性-,139pp,北方林業会

木のキモイキレイ

のぞいてみたら何かがいるよ。
ちょっとキモいわない？
よく見るとおもしろい！
さがしてみよう、森のいきもの。
ほら、いのちのふしぎにあふれてる。

写真協力: 徳田 龍弘 (<http://baikada.com>)

これはゼーんズヘビの一部。
ニョロっとしていて苦手な人
が多い(はちゆうるい)爬虫類だけど、よく見
てみるととってもキレイな体
をしているよ。その生態をよく
知ると、きっとヘビが好き
になるかも！

シムグリ
身近にいる種だけとい
つも地面にもぐって
いて、出会う確率は少ないよ。
小さいうちは赤く美しいが、
大人になると地味になる。

シマヘビ(黒化型)
通称カラスヘビと呼ばれている、
シマヘビの黒化型。黒化といっ
ても、真っ黒なものや背中に白
ラインが入るものなど、いろいろ。

シマヘビ
アオダイショウよりは小ぶりな性
格は荒い。背中に4本の縦シマが
入っているのが典型的だけど、いろ
んなパターンでシマヘビがいるんだ。
共通しているのは目が赤いこと。

北海道のヘビたち

シロマダラ
夜行性で、非常に小型であるこ
とから北海道ではほとんど目
撃されない卵のヘビ。近年、調
査隊の努力により捕獲され、生
息が確認されたんだ。

ニホンマムシ
北海道唯一の毒蛇。
お腹の中で卵をかえ
す胎卵生で、晩夏か
ら秋にかけて子ヘビ
を出産するよ。

アオダイショウ
北海道に生息する最も大型
のヘビで、最も身近な種。

キレイな宝石？これは何？

陶器のように
美しい青！

よく磨かれた
大理石かな？

市松模様のヒモみたい！

身近でカッコいい生き物 ヘビを知ろう!!



体を伸ばしているとシッポの警戒が薄れるよね。
でもトグロを巻いていれば敵の接近にも気が付
きやすいし、素早く攻撃にも移れるのです。

舌で「匂い」をかいてるよ。ヘビ
は空気中の粒子を舌でからめ取り、
口の中にあるヤコブソン器官と
いう場所で匂いを分析している
んだ。

ヘビは隠れる術が上手。だ
から森の中で見つけるのは
大変。でも晴れた日の午前
中にはコンクリートの上で
日光浴していることがあるよ。
こうして体をあたためてか
ら動くんだ。森や緑の多い
場所の近くなら見つかるか
もしれないよ！

目で見ることはでき
ないけれど、一部のヘビ
(北海道ではマムシ)
は鼻先にあるピット
器官で熱を感知でき
るんだよ。暗闇でも、
近くに体温を持った
獲物がいる場所が
わかるんだ。

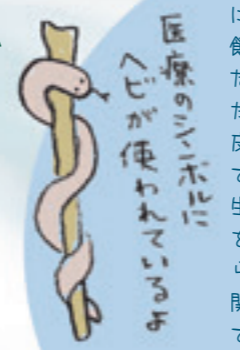


舌でニオイをキャッチ

舌から口の中の
ヤコブソン器官へ



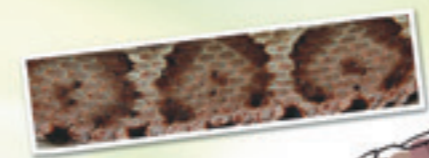
コンクリートの上で日光浴



ヘビは生命力が非常に強くて、一年くらい餌を食べなくても死なない場合もあるんだ。少しの竹がも脱皮を繰り返せば治ってしまう。そんな「再生」と「治療(ちゆ)」を連想できる生態から、世界中の医療機関でシンビレになっているよ。



北海道で生息しているヘビは5種。
その中で唯一の毒蛇が「ニホンマムシ」だよ。
咬まれたら大変！



マムシの体色は五円玉
みたいな銭形模様。
まるで和服の柄のように
美しい。



夜光性です



マムシに注意

びっくりしたら、かんじやう

夜行性だから日中に出くわ
すことはあまりない。でも
8〜9月は妊娠しているメス
が出産に備えて日光浴に出てく
るよ。お腹を守るために怒りっ
ぽくなっているから気をつけて！



実はこぼり屋



面白い生き物たちが約60種もせいぞろいしている「は虫類両生類館」。キレイな展示は美術館のよう。ここには長年飼育してきた本田さんのアイデアがいっぱい！生き物が自然に生きていけるように空気、光、温度、水の管理をしています。飼育員さんの舞台裏を見られるラボものぞいてみて。

長年生まれの爬虫類好き。一日の中でヘビのことを考える時間が最も長いかも？という男から言わせてもらいますと、ヘビほど神秘的で美しく、そして清潔な動物は他にいません。無駄のない形態は進化によって得た究極のフォルムであると感じます。ヘビに限らず、嫌われがちな動物たちのことを深く理解し、魅力を伝え続けることで、彼らの地位向上を目指すのが自分の使命と考えています。

お話を聞いた人
写真提供・取材協力
本田直也 さん

子どものころから爬虫類に親しみ、96年より円山動物園勤務。爬虫類・両生類の飼育と猛禽類のトレーニングが主な仕事。ヨウスコウワニの繁殖で「高確賞」受賞。自宅でも犬猫、爬虫類や猛禽類などの動物を管理中。学芸員、取訪流鷹匠。札幌出身。オフィシャルブログも好評！円山動物園HP <http://www.city.sapporo.jp/zoo/>



子どもを誘う道楽
スネーククラブ



morinoko

新岡薫/エトブン社
北海道のイキモノをテーマに絵と文を描いているイラストレーター。トカゲと鳥とエゾシカが気になる。猫とキツネを見たら追いかける。クモはちょっとコワイ。好きなことは森と動物園と水族館の散歩。札幌出身。ブログ <http://etobunshaineyezo.blogspot.com/>

宮本尚/きたネット
森好き、ヘンなイキモノ好きは、オホーツク海を眺めて育った子どもの頃から。最近ではキノコのトリコです。北海道の森の歌を作りたいたいと思いつつ、なかなか時間がとれないのが悩みのタネ。今年こそ！
Facebook <http://www.facebook.com/nao.easter>

人と野生動物の素敵な距離

子どもの頃、隣近所が数件しかないような道東の谷合の村で暮らしていたことは以前にもこのコラムに書いたことがあります。そんな場所に住んでいれば、いろんな野生動物に逢ったでしょう、と言われます。

当時、キタキツネもエゾシカも、人間の前に気軽に姿を見せることはほとんどありませんでした。夜、裏の山からキツネのどこか寂しげな声が聞こえてくる。夜中に窓の外で草を踏む音がする。ダイヤモンドダストが光る冬の朝、雪の上に残ったたくさんの足跡で、野生動物たちが来ていたことがわかる。でも、実際のキタキツネの姿を見るのは、冬の月の夜、雪の広野をかけて行く、遠い影でした。

いつから野生動物がこんなに人に姿を見せるようになったのでしょうか。最近札幌の街中でも見かけます。エゾシカが、街の中心を流れる豊平川の河川敷や、北海道大学の敷地内などに出没します。ヒグマは藻岩山や手稲山の麓の住宅街を自在に歩き回ります。中島公園や大通公園でもキタキツネを見かけるようになってきました。先日遭遇したキツネは、夜の電車通りの歩道をトコトコと、車や自転車にも全く動じることがありませんでした。

昨年、藻岩山の麓のあちこちでヒグマが出没した時は、少し緊張しました。夜、自宅マンションの自転車置き場、暗闇に

潜んでいるかもしれないクマを驚かせないように、リンを鳴らしてから入りました。

この状況は、決して良いものではありません。旅行の道中や街中で野生動物に出会うのは、とても嬉しい出来ごとです。「昨日、キタキツネ見た!!」「ヒグマ見ちゃった!、怖かった!!」と言う人の口調は何か嬉しそう、ちょっとした武勇伝です。でも、それは何ごとにもなかったから。

ヒグマは基本的には人間のことを自分の獲物とは思っていません。普通はひっそりと人間と距離を取って隠れて人をやりすごしてくれますが、もし彼らに人を襲う理由が生じたら…。というのは、クマと人間の嗜好はとても似通っているといわれているから。甘い果実や蜂蜜、野菜も肉も食べます。

クマが一度、人間の食べ物の味を覚え、狂ったようにどん欲に執着します。知床では、ジュースの味と缶のデザインを覚えたヒグマが、浜の番屋を荒らしまわりました。札幌の街の中に出てきたヒグマがごみをあさって、ジュースやお菓子の味を覚えたら…そこにジュースの缶を手にしたあなたが歩いていたら…。

一件温和に見えるエゾシカも問題です。農業や森の被害も甚大ですが、それだけではありません。道に飛び出したエゾシカが交通事故の原因になっています。街中でパニックになったエゾシカが逃げ

回る先に、子どもが遊んでいたら…と考えるとぞっとします。エゾシカは体が大きく、強い蹄と角を持っていますから、出会い頭の接触で、シカに悪気はなくても大きな事故になる可能性があります。

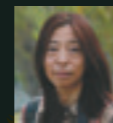
そしてキタキツネ、体も大きくなく人を襲うことは少なそうですが、「エキノコックス症」という寄生虫によるズーノーシス(人畜共通感染症)が問題です。

キツネの糞に混入したエキノコックスの卵胞から、ペットの犬などに感染し、さらに人間に感染します。

感染して自覚症状が出るのは5年~10年経ってから。症状が出たときには肝臓が虫の巣になり、脳、骨、心臓などが大きなダメージを受け、治療も難しい状態になっているそうです。

野生動物に出会えるのは、北海道の自然が豊かだから。この地に暮らす喜びのひとつでもあります。しかし、彼らと親しくつきあうためには、管理されたフィールド、特別な装備や知識、訓練が必要だということを知っておください。

人と動物、お互いが健やかに暮らしていることを喜び合う、そんな関係がいつまでも、たくさんの命が息づく北海道であってほしい。そのためには生き方の違いやテリトリーの違いを理解し、適度な距離を守ることが必要…え? 夫婦円満の秘訣も同じ? そうですね、人間も野生動物の一種ですから、ね。✂



みやもと なお
宮本 尚

認定NPO法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」常務理事

オホーツク出身、東京での生活を経て、札幌市在住。コピーライター、心身障害児(者)の介護・マネージメントなどを経て、現在はきたネット理事のほか、「北海道エネルギーチェンジ100プロジェクト」の事務局長、シンガー・ソング・ライター、20歳5カ月の腎臓が悪い猫と共生中。自宅で皮下補液の点滴をして「長生きしてね」と祈る毎日。

Report



あした コープ未来の森づくり基金 植樹活動

2008年から始まり、今年で5年目となったコープの植樹活動。Fの森という新しい挑戦も始まりました。北海道の未来のために、もっともっと、広がれ森づくり!

この木は 同い年くらい かな?

100年 育てて 大木にな~れ

幸せの 四つ葉、 あるかなあ?



今年も快晴の下、植樹を楽しみました

今年も植樹の季節がやってきました。残雪の残る山々を見上げながら、1本ずつ大切に苗木を植え、100年後の未来に豊かな森が繁る様を思います。

2008年から当別で始まったコープ未来の森づくり基金の植樹活動は、2009年~2010年に7つの町と「森づくり協定」を結び、植樹の輪を広げてきました。

そして2011年には栗山町、2012年には喜茂別町と、新たな町との協定が交わされ、現在は全道11カ所で植樹が行われています。

組合員の皆さんとともに大地に植え続けてきた木々はまだ若く、雪の重みで折れてしまったり、動物にかじられてしまった

りと、多くの困難に直面しています。そんな木々を温かく見守ろうと、あすもりサポーターの皆さんの春先の根踏みや折れた木々の添え木など、育樹の活動も続いています。また、樹を植えるだけではなく、どんな森をつくっていくかというランドデザインに挑戦するワークショップも開かれています。(次のページで紹介)

私たちが植えた木は、今は小さくすぐに折れてしまいます。でも、森づくりに深く関わってくれる人が少しずつ増えて木々を大切に守り、未来を描いていけば、その先の100年後には自然の力と私たちの思いが重なった豊かな森ができあがっているはずです。みなさんもそんな森づくりに、もっと参加してみませんか?



実施日	参加者	植樹木・本数
道民の森	6月1日	230名 21種 1000本
美幌町	6月15日	75名 カラマツ 400本
白糠町	5月19日	94名 トドマツ 400本
上士幌町	6月16日	54名 ダケカンパ 200本
東川町	6月1日	61名 イタヤカエデ・ナナカマド 400本
むかわ町	5月25日	71名 カラマツ 480本
豊浦町	6月1日	64名 トドマツ 400本
知内町	5月19日	101名 ミズナラなど5種 280本
喜茂別町	6月8日	86名 ハルニレ 300本
栗山町	5月18日	114名 トドマツ 480本
真狩村	5月25日	45名 カラマツ 150本

2013年度の森づくりワークショップ

Fの森、むかわ回復の森(仮称)ワークショップ

未来の森の姿について、自分たちで考え、行動しています！

2012年度から始まった市民によるワークショップ形式の森づくりプロジェクトは今年度で2年目。

Fの森のランドデザインを作ったメンバーが次に目指すのは、次年度の計画はもちろん、もっと森づくりに深く携わること。中でもひとつは、主催者側で役割を担うことを目標として活動しました。

その成果は6月1日の道民の森神居尻地区植樹祭へ向かうバスの中。バスリーダーの補助をするかわらで、Fの森がどういった森なのか、どんな森を目指すのかを参加者の皆さんに思い入れ厚く話したのです。

また、今年度のワークショップを通じて、2014年度の植樹計画も準備に入っています。今年度よりもっと深く、細やかに、Fゾーンの自然を理解し、未来の姿を見据えながら、どのように植樹をしていけばよいかを考え、森づくりへのスキルを高めています。今年度後半からの具体的な計画づくりをお楽しみに！

もうひとつ、紹介したい今年から始まる新しいプロジェクトがむかわ町の森での活動です。

「むかわ回復の森」と仮称しているこの森は、いわゆる里山的な森。植樹はもちろんですが、みんなで森の手入れなどを行いながら積極的に森の恵みも楽しんでいきたい。そんなコンセプトで、今までとは少し違った側面の森づくりをやっているというのがこのプロジェクト。

既に4月に行われたワークショップ番外編では、ワークショップメンバーが視察に訪れ、森の手入れの副産物で炭焼きをしたり、木のおもちやづくりをしたり、料理やキャンプをしたい、と、森との関わり方を話し合いました。色々な楽しみがあって、夢がふくらみます。

こちらFの森とともに、皆さんと作り上げる未来の森。植樹や森の手入れだけではなく、森の楽しみを見つけ、ぜひむかわ町の森へも足をお運びください！

2013年度 森づくりワークショップ報告

4/20(番外編) むかわ町の森フィールド視察

新しいプロジェクトの活動の場となる、むかわのフィールドを見に行きました。どんな森なのか、ここではどんな活動が可能なのかを歩き、見て、話し合いました。いろいろな森の楽しみ方を考える、すてきな時間を過ごしました。



5/19 Fの森植樹祭スタッフミーティング

Fの森ワークショップメンバーのステップアップした活動のひとつとして、植樹祭のスタッフとして活躍してもらいました。この日は植樹祭の動きや、メンバーの役割などについて打ち合わせ。みんな主催者側として責任感あふれる打ち合わせを行いました。



7/6 林業体験教室

Fの森にて、自分たちでも森のデータが残せるように、植生や土壌の特長を調べ、林業のプロに木々の調査やその方法を教えてもらいました。これからのFの森がどのように育っていくのか、記録が楽しみ。また、枝打ちなど、森を育てるために必要な作業を体験しました。



会計報告など

コープ未来の森づくり基金は、皆さまからの支援や協力によって活動を続けています。

「コープの森」は全道で11ヶ所になり、参加者も1000人を超え、サポーターも倍化しました。

また、「Fの森ワークショップ」や「森づくり交流会」の開催、facebookの立ち上げなど、参加型の活動で環境や自然に対する関心を深めました。

組合員さんのレジ袋辞退による積立金2,196万円、エコ商品協賛245万円などにより、収入は2,529万円となりました。

コープの森植樹祭や森とのふれあい

活動が全道で執り行われ、苗木代やバス代・弁当などの運営費用、サポーター木リングが支出されています。

森づくり団体への助成は高額3団体、小額12団体となり、そのほかにも魚付林の植樹にも助成しました。

今後ともコープ未来の森づくり基金への支援とご協力をお願いいたします。

2012年度収支一覧

	11年度実績	12年度決算	内容 (単位:千円)
レジ積立金	22,604	21,959	レジ袋辞退の積立金
協賛金	5,493	3,329	エコ協賛金、企画協賛金
収入計	28,097	25,288	
植樹森づくり活動	9,176	8,252	植樹祭、森づくり企画、サポーター活動
助成金支援	8,974	7,984	森づくり団体420万、ぎょれん助成378万
広報啓発費	2,058	1,391	モリイク、サポーター通信、Facebook、助成説明会
調査研究費	317	455	助成団体視察
基金運営費	7,101	7,024	業務委託費、会議費、交通費
支出計	27,626	25,106	

2013年度 コープ未来の森づくり基金 助成団体一覧

2013年度の助成は以下の森づくり団体に決定しました。北海道の森づくりやその大切さを多くの人に伝えてください！

高額助成

- 特定非営利活動法人 苫東環境 commons (苫小牧市/初助成)
- NPO法人 占冠村づくり観光協会 (占冠村/初助成)
- 特定非営利活動法人 北海道新エネルギー普及促進協会 (札幌市/初助成)

小額助成

- 当別森林ボランティア シラカンパ (当別町)
- どんぐりの森友の会 (釧路町/初助成)
- 札幌市立駒岡小学校 緑の少年団 (札幌市/初助成)
- 北海道林業技士会 (札幌市)
- 里見緑地を守る会・どんぐり (北広島市)
- 特定非営利活動法人 えんの森 (浜中町/初助成)
- 河川愛護団体 リバーネット21ながめま (長沼町)
- NPO法人 北広島森林ボランティア・メイプル (北広島市)
- 飛生アートコミュニティ (白老町/初助成)
- 特定非営利活動法人 木材・合板博物館 (札幌市/初助成)
- NPO法人 トラストサルン釧路 (釧路市)
- NPO法人 ビオトープイタンキ (室蘭市)

むかわ回復の森(仮称)ってどんなところ？

植樹だけじゃない、森づくりの新しい活動のフィールドをご紹介します！



森はこんな雰囲気。木々は若いです。



むかわ町の森の概要

面積は2.26ha。10数年ほど前に皆伐が行われ、切り株からの萌芽で繁った林になっています。苫小牧地区の植樹地・30年ほど前に伐採された林と隣接し、森の生長の違いを見ることができます。

森を世話して、森の恵みを楽しみたい。

むかわ町の森は、以前伐採を受けた、生長初期といつていいような若い森です。この先、間伐や枝打ちなど、森の手入れがあると健やかな、豊かな森になっていくことでしょう。実際にそんな手入れをしながら、間伐した木々や森の実りなど、森からの恵みを頂いて楽しむ森づくりはできないか。そんなことを考えてむかわ町と提携したのがこの森なのです。

この先、森の生長を見守りながら相互に関わり合う森づくりをしていきませんか？活動への参加をお待ちしています！

アンケート&プレゼント

「モリイクvol.6」いかがでしたでしょうか。今後の紙面づくりのために、アンケートにご協力をお願いします。

- Q1 モリイクを読んだ感想をお聞かせ下さい。
- Q2 面白かった記事・つまらなかった記事はどれですか？ 右から3つお選び下さい。
- Q3 森づくりの活動に参加したことがありますか？(はい/いいえ)
- Q4 コープ未来の森づくり基金の活動へのご意見があればお聞かせください。
- Q5 取り上げてほしい記事のテーマがありましたらお書き下さい。

巻頭コラム(P2,3)
分かち合う森づくり(P4~7)
木づかい(P8)
大きな木の小さな物語(P9)
森のキモイ・キレイ(P10,11)
森林再生コラム(P12)



PRESENT!

アンケートに回答いただいた方から抽選で2名様に、英円楽器より、道産素材にこだわったクルミのマラカ(3つセット。それぞれ違う音がします)をプレゼントします。

応募方法

アンケートの回答を記入の上、住所・氏名・年齢・連絡先を明記の上、はがき、FAX、メールにてお送り下さい。プレゼントの当選は発送をもって替えさせていただきます。

応募締切 10/31(木) 当日消印有効

コープさっぽろ基金事務局

〒063-8501 札幌市西区発寒11条5丁目10番1号
FAX: 011-671-5743
メール: csap.k.asumori@todock.jp



携帯メールは
こちらからどうぞ